


銅・アルミレポート

橋本アルミ株式会社取締役
橋本 健一郎



9月の銅の概況及び10月の見通し (3)

	予想レンジ	
LMEセツル	8,500-9,500ドル	↑
建値	97万円-109万円	↑
為替	109~111円	円高

(1か月間TTM)

■国内概況まとめ

【自動車生産】

生産動態統計によると8月の自動車生産台数は前年比-19.4%の44万8,434台。

【自動車販売】

日本自動車販売協会連合会によると9月の自動車販売台数(軽除く)は前年比-30%の20万5,423台。

内訳は乗用車が-32.7%、貨物は-13.1%、バスは-21.7%。

【住宅着工戸数】

8月の新設住宅着工は、持家、貸家及び分譲住宅が増加したため、全体で前年同月比7.5%の増加となった。また、季節調整済年率換算値では前月比7.7%の減少となった。

○新設住宅着工戸数は74,303戸。前年同月比7.5%増、6か月連続の増加。

○新設住宅着工床面積は6,147千㎡。前年同月比12.5%増、5か月連続の増加。

○季節調整済年率換算値では855千戸。前月比7.7%減、先月の増加から再びの減少。

【伸銅品生産】

日本伸銅協会が公表した2021年8月伸銅品生産動向速報によると、8月伸銅品生産量は前月比16.4%減少の5万5,230トン、前年同月比50.2%増加した。コロナ前の2019年8月と比較しても3.4%増加した。引き続き好調が続いている。

銅糸は、同比11ヶ月連続のプラス。引き続き車載、デジタル家電用の半導体向けが好調である。自動車生産挽回に向けた積み増し生産が続き、需要が堅調である。

銅糸の需給ひっ迫感の声が聞こえてくるが、現在銅糸はフル生産が続いている。それでも顧客から銅糸がショートした話はない。

黄銅棒は、同比6ヶ月連続プラス。タッチレス水向け需要伸びが続き。

【電線】

前年比+3.1%の45万7千t。内訳は、国内が+2.2%輸出が+56%。

【輸出】

電気銅輸出が-39.2%の4万7,167t。銅スクラップが-35.5%の2万1,238t。

【輸入】

電気銅が-57.9%の252t。スクラップが-9.7%の8,693t。

【見通し】

【自動車】

8月の自動車生産が-19.41%。7月国内販売台数が前年比-30%。

生産、販売共に急減少。半導体以外の中国からの部品供給の遅れからとの事。今後に注視。

【伸銅品生産】

8月伸銅品生産量は前年同月比50.2%増加した。前月に続き5割増。

自動車メーカーが計画する今年9月からの挽回生産に向けた在庫積み上げが大きい。更に増加するか注目。

【電線】

前年比+3.1%の45万7千t。

内訳は国内が+2.2%、輸出が+56%。

輸出が増加率が大幅増加。内外ともにプラスが続くか注視。

・銅輸出は、電気銅、スクラップ共に内需旺盛に伴い減少。

・銅輸入は、電気銅、スクラップとも世界的な原料不足から減少。

【スクラップ景況予想】

前月に続き流通【一次問屋】在庫は銅建値が110万から一時103万まで急落した(その後108万まで回復)ことから発生が無く在庫薄。

需要面に関して前月に続き中国の部品調達遅れの遅れからの自動車生産の減少傾向があるが挽回生産に向けた在庫積み上げから需要は旺盛。

仮に急落してもその価格での販売に躊躇する問屋も多く定期で入らないメーカーが高値買いの傾向が今後も続く。

【LME・為替予想】

今月は、①中国の二酸化炭素排出削減措置と、これに伴う電力供給量の減少が原因となった工業用金属の需要減退懸念。

②中国不動産大手・恒大集団の経営不安問題に左右される。

①に関しては、いままでも環境問題に関しては強硬な態度で臨んでおり工業用金属の需要減退懸念は今月もつづくのではないかと。

②に関しては、救済するしないの二択ではなくマーケットの様子を見ながらの解決策を行う可能性が高く上下とも動きにくく状況になるのではないかと。

これらを踏まえた10月の銅価格は8,500-9,500ドル(セツル)との予想。

ドル円値は109円~111円(TTM)台を予測。

銅建値に関しては97万-109万円程度と予測している。

(「9月の銅の概況及び10月の見通し」おわり)

日刊金属 既刊収録サイト



<https://nikkankinzoku.co.jp/>